

2022年12月までの東京都食中毒発生状況（速報値）12月31日現在

2022年12月末までの都内の食中毒の発生状況が、東京都から公表されました。

12月の食中毒速報値は4件で患者数は41名でした。

1 事件数（12月分までの累計）

102件（2021年同期83件、2020年同期114件、最近10年間の同時期125件）

2 患者数（12月分までの累計）

493名（2021年同期610名、2020年同期3,359名、最近10年間の同時期1,847名）

3 死者数（12月分までの累計）

0名（2021年同期0名）

4 月別食中毒発生状況

（1）2022年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	8	8	12	11	7	18	13	5	3	3	10	4	102
患者数 (人)	14	23	37	66	17	30	68	10	82	11	94	41	493

（2）2021年月別発生状況（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	4	7	16	4	2	5	5	5	6	12	9	8	83
患者数 (人)	5	154	41	9	7	116	13	40	25	27	26	147	610

（3）2020年月別発生状況（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	11	19	11	3	5	6	10	7	8	14	14	6	114
患者数 (人)	66	250	64	5	75	9	28	2,558	16	143	130	15	3,359

（4）最近10年間の月別発生状況（2021年までの平均値）（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	10.8	10.8	12.7	9.9	7.8	11.1	9.7	9.7	11.9	10.3	8.8	11.5	125.0
患者数 (人)	254	241	134	176	70	112	53	360	85	83	80	193	1,840

5 病因物質別発生件数

12月は、ノロウイルス食中毒とアニサキス食中毒がそれぞれ2件ずつという結果でした。

ノロウイルス食中毒が少ない状況が続いていますが、12月になり2件の発生報告がありました。これから、年が明けた4月頃まではノロウイルス食中毒に注意が必要な時期となります。

		令和4年（2022年）				令和3年（2021年）			
		12/1～12/31		累計(12/31まで)		12/1～12/31		累計(12/31まで)	
		件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
ウイルス	ノロウイルス	2	39	6	79	2	138	8	193
細菌	カンピロバクター			19	81			19	61
	黄色ブドウ球菌			4	31	1	4	3	30
	ウエルシュ菌			5	173			4	250
	セレウス菌			1	10			1	2
	サルモネラ			1	9				
	腸管出血性大腸菌			2	10			2	7
	耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌(※)			1	29				
	ボツリヌス菌			1	1				
	カンピロバクター及びサルモネラ							1	5
寄生虫	アニサキス	2	2	60	61	5	5	42	42
	アニサキス及びシュードテラノーバ			1	1				
化学物質	ヒスタミン							1	17
	次亜塩素酸ナトリウム							2	3
自然毒	植物性自然毒			1	8				
	動物性自然毒								
不明									
合計		4	41	102	493	8	147	83	610

(※)本菌の病原性については、いまだ十分に解明されていない。

6 原因施設別発生件数

アニサキス食中毒の原因施設は1件は魚介類販売業ですが、もう1件は不明でした。

		令和4年（2022年）				令和3年（2021年）			
		12/1～12/31		累計(12/31まで)		12/1～12/31		累計(12/31まで)	
		件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
飲食店	一般	2	39	68	263	6	118	62	299
	仕出し					1	28	2	49
	そうざい							1	1
	自動車							1	5
集団給食	要許可			2	82			2	149
	届出			5	113			2	89
魚介類販売業		1	1	10	10			5	5
菓子製造業								1	6
家庭				3	3			4	4
その他				1	8				
不明		1	1	13	14	1	1	3	3
合計		4	41	102	493	8	147	83	610

(注)飲食店の「一般」には、一般飲食店、すし屋、弁当屋、そば屋を含む。

7 食中毒のことや発生状況についてもっと知りたい方は

(1) たべもの安全情報館 知って安心～トピックス～(東京都福祉保健局)

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/anshin_topics.html

(2) 東京都の食中毒発生状況

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/tyuudoku/index.html>

(3) 全国の食中毒発生状況 (厚労省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html

8 元食品衛生監視員のつぶやき

食中毒統計は、1月から12月までの年次で集計されます。

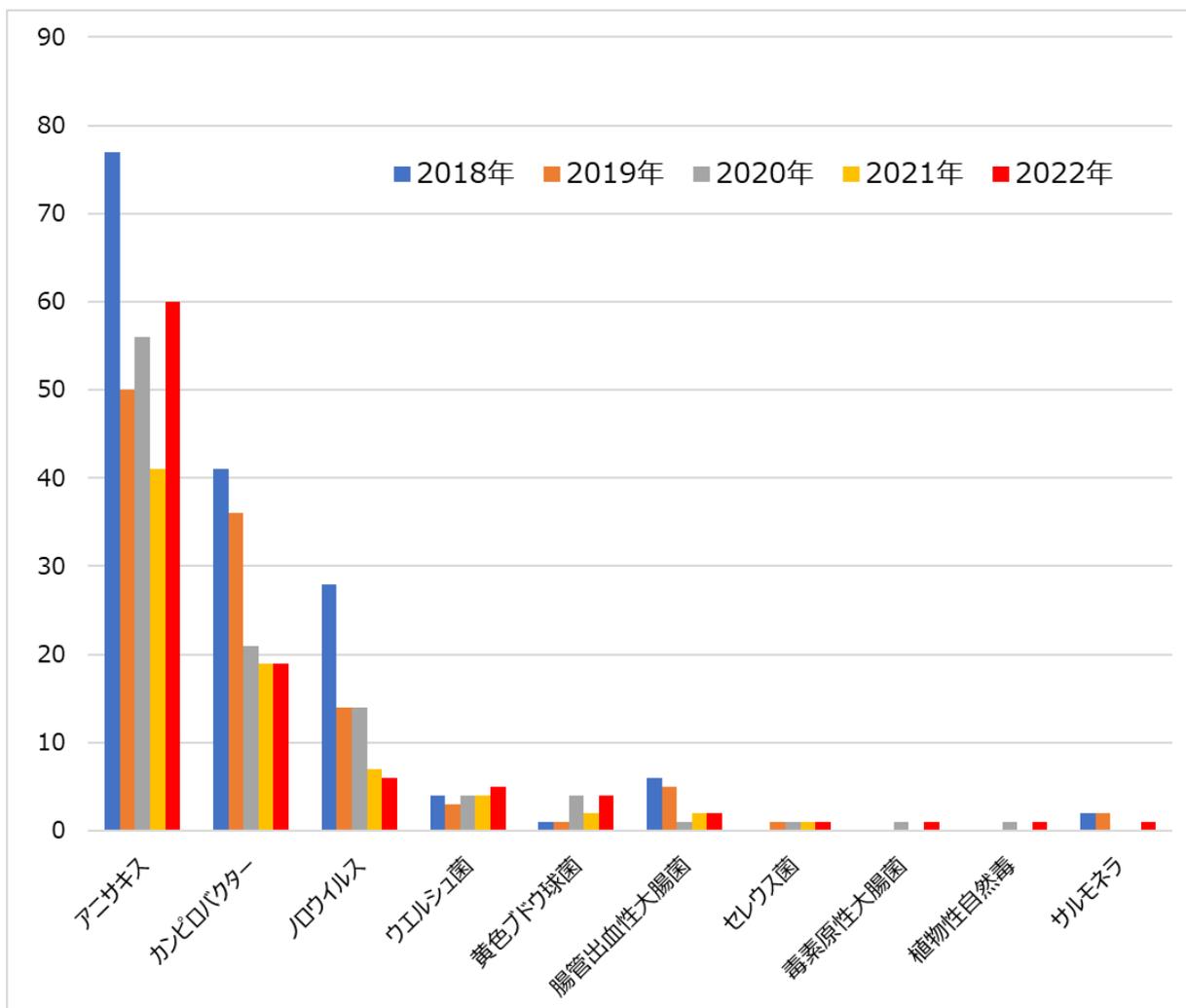
したがって、速報値ですが、今月の結果が2022(令和4)年の東京都の食中毒発生状況となります。確定するのはもう少し先になりますが、速報値の段階で2022年の食中毒発生状況を見てみます。

下の表は、最近の5年間の病因物質別の食中毒発生件数の一覧です。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
アニサキス	77	50	56	41	60
カンピロバクター	41	36	21	19	19
ノロウイルス	28	14	14	7	6
ウエルシュ菌	4	3	4	4	5
黄色ブドウ球菌	1	1	4	2	4
腸管出血性大腸菌	6	5	1	2	2
セレウス菌		1	1	1	1
植物性自然毒			1		1
サルモネラ	2	2			1
astA保有大腸菌					1
ボツリヌス菌					1
アニサキス, シュードテラノーバ					1
次亜塩素酸ナトリウム	2		1	2	
ヒスタミン	1	1	3	1	
カンピロバクター, サルモネラ	1	1	2	1	
不明	3	3	2		
シュードテラノーバ	1	1	2		
動物性自然毒	1		1		
毒素原性大腸菌			1		
腸管出血性大腸菌, カンピロバクター	1	1			
腸炎ビブリオ	13				
サポウイルス	1				
A群ロタウイルス	1				
クドア・セプテンpunkタータ	1				
合計	185	119	114	80	102

2022年は、前年まで続いていた発生件数の減少傾向が上昇に転じました。

また、下のグラフは主な病因物質の5年間の変化を見たものです。



コロナ前の2018年、2019年とコロナの影響を受けた2020年以降という状況が食中毒の発生状況にも影響していると考えられますが、特にカンピロバクターとノロウイルスの減少が顕著に表れています。

逆にアニサキス食中毒は減少傾向とはならず、2022年は最近の4年間では最も発生件数が多くなっています。

その他の病因物質では、目立った傾向はありませんが、ウエルシュ食中毒がじわじわと増加しているのが心配です。

次に患者数について示したものが次の表です。

2022年は最近の5年では最も患者の発生が少なくなっています。

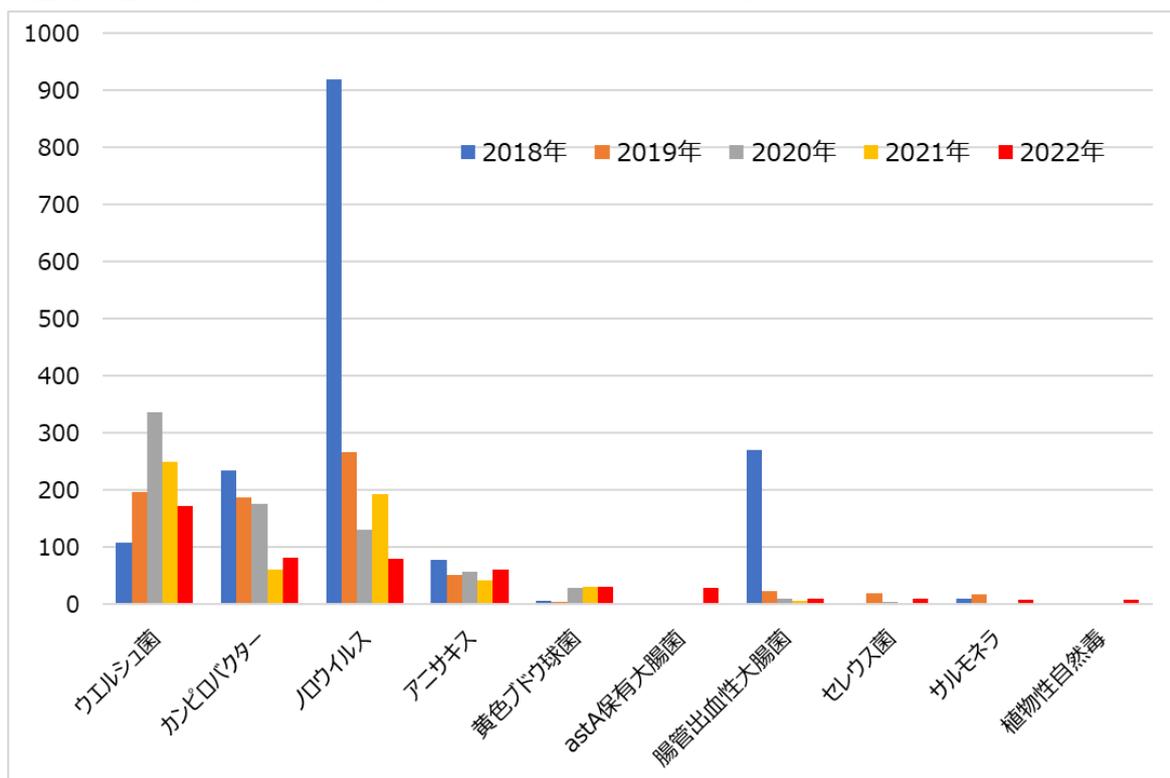
病因物質別にみると、ウエルシュ菌食中毒が圧倒的に1位を占めていますが、発生件数も増加傾向にあり、一層の注意が必要な食中毒です。

また、ノロウイルス食中毒の患者がついに第3位となりました。

コロナ感染症予防のために、手洗いや消毒が徹底してきた影響とも考えられますが、はっきりとした理由は不明です。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
ウエルシュ菌	108	196	336	250	173
カンピロバクター	235	187	177	61	81
ノロウイルス	920	266	131	193	79
アニサキス	78	52	58	42	61
黄色ブドウ球菌	7	4	29	30	31
astA保有大腸菌					29
腸管出血性大腸菌	270	24	10	7	10
セレウス菌		20	4	2	10
サルモネラ	11	18			9
植物性自然毒	1		3		8
ボツリヌス菌					1
アニサキス, シュードテラノーバ					1
ヒスタミン	6	7	47	17	
カンピロバクター, サルモネラ	8	7	6	5	
次亜塩素酸ナトリウム	3		1	3	
動物性自然毒			1		
毒素原性大腸菌			2,548		
不明	49	81	6		
シュードテラノーバ	1	1	2		
腸管出血性大腸菌, カンピロバクター		2			
腸炎ビブリオ	120				
サポウイルス	81				
A群ロタウイルス	8				
クドア・セプテンpunkタータ	7				
腸管出血性大腸菌O157及びカンピロバクター	4				
合計	1,917	865	3,359	610	493

また、主な病因物質別患者数の推移を示したグラフを下に示します。



ノロウイルス食中毒の患者数が極端に減少していることがわかります。
2022年はカンピロバクターよりも少ない79名となりました。